

介護福祉系学生の就職意向に関する調査研究

井村圭壮

Survey on the Intent of Care Work Students to Find Jobs in the Field

This survey queried students trained to be certified health care workers on their intent to enter the field of health care.

While focusing on students who have no desire to enter the field, the survey attempted to identify the existence of any leaning in their intent (i.e., to enter the field or not) and to identify the reasons.

The survey revealed a constancy in students' motivation upon entering school, their sense of purpose, and their intent to enter the field. Moreover, it showed hands-on training to be linked to students' desire to learn, revealing experience in hands-on training to be a major, independent variable in the validation of students' intent to find work in the field.

As for students with no intent to enter the field, the overwhelming reason given was the lack of status given to social welfare work by society. Of these students, however, 42.9% felt that social welfare work provides "human" interactions, and 24.5% felt that social welfare work was more "human" than work in the industrial sector. That such students continue to think of social welfare work in a positive way and see it as a "human service" is an important fact that should be taken into consideration.

Key words : Certified health care workers, Care work students, The field of health care

I 序 論

1987年5月、「社会福祉士及び介護福祉士法」が制定され10年が経過した。1997年4月現在、介護福祉士養成校は254校、292学科で、定員は17,136名に達している¹⁾。1997年4月の新設校は40校にも及ぶ²⁾。また、介護福祉士登録者数も養成施設卒業者、国家試験合格者合計で89,032名(1997年3月現在)に達している。

このように介護福祉士資格取得者の社会的進出は目覚ましいものがあるが、その背景には、1980

年代に入り高齢社会の進展とともに多様な福祉サービスが求められるようになってきたという大きな社会的要因がある。この10年間の急激な高齢化は、その後の福祉関係八法の改正等、一連の社会福祉改革をもたらし、「新ゴールドプラン」の進行とともに介護福祉士の需要を大きく膨らませていったといえる。しかし、名称独占としての資格制度を今後如何に改善していくか、あるいは福祉専門職としての専門性の確立等、課題は山積している。

また、養成教育の上でもより質の高い人材を輩出するため養成カリキュラムの検討を早急に実施しなければならない時期にきているといつてよい。同時に、養成教育の上では教育実践の内実を常に振り返る必要性があり、学生一人ひとりの学習姿勢を直視しながら、教育プロセスのどこでどのような変化がみられるのかを検討・研究していかなければならない課題もある。

わずか2年の養成コースにおいてどれだけの教育効果が現われるのか、また学生の介護福祉職への意識、あるいは介護技術の向上、福祉倫理の形成がどのような要因によって左右されていくのか、実証的に探究していくことも重要である³⁾。勿論、各養成校には独自の教育理念・方針を持ち、資格取得のための職業教育を行っているわけであるが、いわゆる「指定規則」の中で、全国统一の養成カリキュラムを通して何が発言できるのか⁴⁾、どこに介護福祉士を養成していくための改善すべき問題性が山積しているのかを分析することも不可欠な作業である。

上記のような考え方から、今回の調査研究では教育課題を学生の就職意向に限定し、介護福祉士養成校に入学したにもかかわらず、介護福祉職を希望しない学生に視点をあて、「介護福祉意向あり」あるいは「介護福祉意向なし」の方向へと傾くその要因を探ることを試みる⁵⁾。

II 調査方法

1. 調査対象

本調査研究では、中国四国地区から5校の養成校（2回生）を有意に選定して調査を行っている。有効回答数によるサンプルは309（A校73、B校44、C校74、D校66、E校52）である⁶⁾。性別では男性91（29.4%）、女性218（70.6%）となる。平均年齢は19.97、標準偏差3.06であった。なお、養成校によって男女の比率にばらつきがあり、養成校を全設問とのクロス集計によって、データの一般化の試みを行うには危険性が伴うが、参考に有意差の見られなかった統計表はTableIV-1～10においてはTableIV-2、TableIV-3、TableIV-5、TableIV-9(2)、TableIV-10であったことを述べておく。

2. 調査方法

調査方法は質問紙による集合調査である。プリコード回答法によって実施しており、回答形式は単一回答形式（single answer : SA）、制限複数回答形式（limited answer : LA）、無制限複数回答形式（multiple answer : MA）に区分している。調査時期は1996年5月1日～20日である。

Ⅲ 結果・考察

1. 現在の学校（専攻）を選んだ理由（MA）

TableⅣ-1に示すように、「資格が得られるから」67.3%と「介護福祉の仕事に就きたかったから」62.5%が高い比率を示している。この現在の学校（専攻）を選んだ理由の設問は、「介護福祉意向あり」「介護福祉意向なし」と有意な関連が見られ、

TableⅢ-1のように、「介護福祉の仕事に就きたかったから」という選択肢においては「意向あり」の学生の比率が顕著に高くなっており、逆に「意向なし」と答える学生に「なんとなく入学した」という選択肢を選ぶ比率が高い⁷⁾。また、学校（専攻）を選んだ理由として「自宅から通えるから」においても「意向なし」の学生が多く答える傾向がでているのである。つまり、入学段階での目的意識が介護福祉職への意向と結びついていることが読み取れるのである。

TableⅢ-1 あなたが現在の学校（専攻）を選んだ理由をお教え下さい。（複数回答可）

回 答 項 目	介護福祉意向あり	介護福祉意向なし
① なんとなく入学した	※※※ 6.5	24.5
② 介護福祉の仕事に就きたかったから	※※※ 70.4	20.4
③ 資格が得られるから	66.5	71.4
④ 自分自身の力を試してみたかったから	13.1	14.3
⑤ 将来、家族の介護などに役立つから	34.6	36.7
⑥ 仕事に直接役立つ勉強ができるから	+	27.3
⑦ 他に行くところがなかったから	5.0	8.2
⑧ 自宅から通えるから	※	14.2
⑨ 家族の者に勧められたから	+	11.5
⑩ 進路指導で勧められたから	7.7	14.3
⑪ その他	4.6	8.2

$$x^2=46.086 \quad df=10 \quad P<0.001$$

$$+P<0.1 \quad ※P<0.05 \quad ※※P<0.01 \quad ※※※P<0.001$$

2. 職業を選ぶとき最も重視すること（LA=3）

比率の高い順に示せば、「仕事に魅力、やり甲斐がある」70.2%、「職場の人間関係がよい」58.9%、「自分の能力・資格が生かせる」45.6%、「給料が高い」23.6%となっている。逆に、比率の最も低いのは「その他」を除けば「出世の見込みがある」1.9%であった（TableⅣ-2）。なお、「介護福祉意向」との設問に有意差は見られなかった。

3. 介護福祉の仕事へのイメージ（LA=3）

TableⅣ-4には介護福祉の仕事へのイメージを尋ねている。「人間的なふれあいがある」が61.5%と特に高い回答率であることがわかる。また、「やり甲斐がありおもしろい」24.9%、「豊かな人間性が身につく」25.0%、「企業に比べて人間的」20.4%等の肯定的イメージの回答もあるが、逆に「仕事がつい」30.4%、「勤務時間が長く、休日が少ない」22.3%、「給料が低い」19.4%といった意見も多いことを記しておく。性別比較では「安定性、将来性がある」において男性に有意に比率が高くなっている。

なお、「介護福祉意向」との設問においてはTableⅢ-2に示しているが、著しい差が見られ、介護福祉士を目指さない学生は介護福祉士が「社会的に評価されていない」と答えているのであった。また、「仕事がつい」という選択肢にも有意差は見られる。ただし、選択肢全体の中から

例えば、「介護福祉意向なし」の学生でも42.9%が「人間的なふれあいがある」と答えており、「企業に比べて人間的」も24.5%となっており、介護福祉士の道を目指さなくても、その職業への肯定性は学生の意識の中に存在していることも読み取っておかなければならない。

4. 実習経験による意識の変化 (SA)

プリコード調査をそのまま示せばTableIV-5のように、「ますます良い印象を持った」9.4%、「良い印象を持つようになった」

53.4%、「なにもかわらない」23.6%、「悪い印象を持つようになった」12.9%、「ますます悪い印象を持った」0.6%となった。全体では62.8%が良い印象へと傾いているが、その逆イメージへと動いた学生も存在していることも事実である。その要因として、やはり入学時の目的意識との関連があり ($p < 0.05$)、入学時に「介護福祉の仕事に就きたかったから」の選択肢を選ぶ学生では68.4%が実習を経験した結果、良い印象へと変化している。「なんとなく入学した」学生で良い印象へと変化する比率は34.5%にとどまっている。なお、悪い印象へ変化する比率の高い学生の理由は入学時に「他に行くところがなかったから」29.4%、「なんとなく入学した」27.6%、「自宅から通えるから」23.5%の比率で悪い印象へと変化している。このように入学時の目的意識、動機が、実習経験後の意識変化、あるいは実習そのものの過程に影響を与えることは明らかであり、養成教育上でいかなる内実的技術が必要となるか検討を要する事項である。

また、先の「介護福祉士へのイメージ (LA=3)」との設問とにおいても有意差が見られ ($P < 0.001$)、「やり甲斐がありおもしろい」と答える学生で実習経験の結果が良い印象へと変化するのは80.5%に達している。介護福祉の仕事が「明るい」と答える学生の場合は75.0%が良い印象へと変化している。ただし、「やり甲斐がありおもしろい」と答える学生の6.5%、「明るい」と答える学生の12.5%、「人間的なふれあいがある」と答える学生の11.6%は悪い印象へと変化しており、介護福祉の仕事へ好イメージであっても実習から引き起こされる介護の現場への否定的イメージというものを統計的側面からではなく、ひとつひとつの教育上の実践的対応から見つめていくことも不可欠である。

TableIII-3には「介護福祉意向あり」「介護福祉意向なし」とのクロス集計の結果であるが、や

TableIII-2 介護福祉の仕事について、どのようなイメージをもっていますか。(3つまで回答可)

回 答 項 目	介 護 福 祉 意 向 あり	介 護 福 祉 意 向 なし
① やり甲斐がありおもしろい	※ 27.7	10.2
② つまらない	0.0	2.0
③ 明るい	3.1	0.0
④ 暗い	2.7	4.1
⑤ 社会的に意義がある	17.7	18.4
⑥ 社会的に評価されていない	※※※ 9.6	30.6
⑦ 人間的なふれあいがある	※ 65.0	42.9
⑧ 仕事が好き	※ 27.3	46.9
⑨ 豊かな人間性が身につく	25.8	20.4
⑩ 給料が低い	+	17.7
⑪ 企業に比べて人間的	19.6	24.5
⑫ 福利厚生が悪い	0.4	2.0
⑬ 自分の能力が生かせる	※ 15.8	4.1
⑭ 勤務時間が長く、休日が少ない	22.3	22.4
⑮ 安定性、将来性がある	16.9	10.2
⑯ 昇進のチャンスが少ない	1.2	2.0
⑰ その他	1.9	2.0

$$\chi^2=45.750 \quad df=16 \quad P < 0.001$$

は「介護福祉意向あり」の学生に良い印象の比率が有意に高くなっていることが明らかとなっている。つまり、介護実習の経験はその後の学生の学習意欲と関連しており、介護福祉の仕事への意向との有意性は、実習経験がその大きな独立変数となっていることは事実であろう。

TableⅢ-3 現場実習に行かれたと思いますが、実際に福祉の現場を体験してみて、あなたの福祉の仕事に対する気持ちはどのように変化しましたか。
(回答は1つだけ)

回 答 項 目	介 護 福 祉 意 向 あり	介 護 福 祉 意 向 なし
① ますます良い印象を持った	+ 10.8	2.0
② 良い印象を持つようになった	※※ 56.9	34.7
③ なにもかわらない	※ 21.5	34.7
④ 悪い印象を持つようになった	※※ 10.4	26.5
⑤ ますます悪い印象を持った	0.4	2.0

$$x^2=20.233 \quad df=4 \quad P<0.001$$

5. 介護福祉への就職意向の有無 (SA)

「あなたは現在、介護福祉関係の仕事に就きたいと思いますか。」という設問をなげかけてみると、TableⅣ-8のようになった。「できれば介護福祉関係に就職したい」84.1%、「介護福祉関係に就職するつもりはない」4.5%、「まだ決めていない」10.7%、「進学したい」0.6%。つまり、4.5% (14名) の学生が介護福祉関係への道を否定しているわけであるが (以下「就職否定群」)、ここではこの14名の学生 (男性2名、女性12名) の全設問における傾向性を見ていくことにする。

まず、「現在の学校 (専攻) を選んだ理由 (MA)」においては、「できれば介護福祉関係に就職したい」 (以下「就職肯定群」) との比較では、「自宅から通えるから」19.4%、「家族の者に勧められたから」13.9%という選択肢に「就職否定群」の比率が高くなっている。統計表全体の有意差も顕著 ($p<0.001$) であった。逆に、「就職肯定群」では「介護福祉の仕事に就きたかったから」「資格が得られるから」「将来、家族の介護などに役立つから」「仕事に直接役立つ勉強ができるから」に多く回答を寄せている。このことから、入学動機、入学時の目的意識は就職意向までその要因を引き摺ることは否定できない事実である。

次に、「介護福祉への仕事のイメージ (LA=3)」においても有意差がみられ ($P<0.001$)、「就職否定群」14名中9名 (64.3%) が「仕事がきつい」と回答している。また、6名が「勤務時間が長く、休日が少ない」と回答している。ただし、5名が「人間的なふれあいがある」、4名が「企業に比べて人間的」と答えており、制限複数回答形式 (LA=3) のわりに良いイメージを選択する比率も高く、介護福祉の仕事に就く気持ちはないがその仕事への肯定性が意識のどこかには形成されているのかもしれない。

さて、「実習経験による意識の変化 (SA)」の結果であるが、「就職否定群」14名の回答をそのまま表記すると以下ようになる。「ますます良い印象を持った」0名、「良い印象を持つようになった」2名、「なにもかわらない」5名、「悪い印象を持つようになった」6名、「ますます悪い印象を持った」1名であった。このように調査対象者全体では、先にも述べたように62.8%が良い印象へと傾いているのに比べ、「就職否定群」の場合は14名中7名が介護福祉の仕事に対して悪い印象に変化しているのである。この点においても実習という表現が綿密性に欠ける表記

である点を考慮に入れても、実習経験というものが学生にとって就職意向と深い関連性があることは否定できない事実である。

6. 職場希望先 (SA)

次に、先の設問で「介護福祉関係に就職したい」と答えた学生に希望の職場を尋ねてみると、TableIV-9(1)に示すように、「特別養護老人ホーム」が51.9%で最も高い比率である。以下、「老人保健施設」13.5%、「老人デイサービスセンター」6.5%、「身体障害者更生援護施設」5.0%、「病院」3.8%、「福祉関係の公務員」3.1%の順となっている⁸⁾。職場希望先の設問は性別において差異がでており (TableIV-9(1))、男性女性ともに「特別養護老人ホーム」の希望者が最も多いが、今回の調査では「養護老人ホーム」の希望者は全員が男性であった。ただし、実数上からは信頼性の薄い結果といえる。なお、「実習経験による意識の変化 (SA)」との設問において有意差は見られなかった。

7. 希望職種 (SA)

希望職種はTableIV-9(2)に示している。「寮母・寮父」が63.5%で最も高い比率となっている。以下、「指導者」15.0%、「介護員」9.6%、「ホームヘルパー」5.0%、「相談員 (ケースワーカー等)」3.5%の順であった。希望職種に関しては性別において顕著な差異が見られ、男性の場合は「指導員」が44.3%でトップであった。これに比べ、女性は「寮母」が76.8%と高い比率を示している。女性で「指導員」は2.2%にすぎない⁹⁾。なおこの設問においても「実習経験による意識の変化 (SA)」との間に有意差は出ていない。

8. 介護福祉関係の職場に就職したくない理由 (MA)

TableIV-8の設問で、「介護福祉関係に就職するつもりはない」と答えた学生に、介護福祉関係の職場に就職したくない理由 (MA) を尋ねてみるとTableIV-10のようになった。比率の高い選択肢を記せば、「やっていける自信がもてない」64.3%、「仕事がきつい」57.1%、「他にやりたいことがある」57.1%、「勤務時間が不規則で休日が少ない」50.0%等であった。逆に、比率の低い選択肢は「福利厚生が悪い」0.0%、「親などが反対している」0.0%、「その他」0.0%、「仕事に魅力ややり甲斐が欠ける」7.1%、「職場が不便な所にある」7.1%となっており、上記の理由を総合的に解釈しても、「やっていける自信がもてない」等の介護福祉の仕事へ適応できないという不安感、「他にやりたいことがある」等の職種の方向転換が大きな理由として考えられよう。

最後に、「介護福祉意向の有無」に関する統計表をすべての設問とのクロス集計による有意差検定から、意向なしの要因と考えられるものを整理してみると、Table III-1 ($\chi^2=46.086$ $df=10$ $p<0.001$)、Table III-2 ($\chi^2=45.750$ $df=16$ $p<0.001$)、Table III-3 ($\chi^2=20.233$ $df=4$ $p<0.001$) が特に有意性が強いことがわかる。つまり、入学理由・動機、介護福祉の仕事へのイメージ、現場実習の体験が介護福祉職への意向否定と繋がっていることがわかる。なお、複数回答形式の設問があったことを鑑み、選択肢ごとの検定から有意性の強い内容 (選択肢)

介護福祉系学生の就職意向に関する調査研究

を拾い上げて見ると、「介護福祉意向あり」では「介護福祉の仕事に就きたかったから」(p<0.001),「良い印象を持つようになった」(p<0.01)であり,「介護福祉意向なし」では「なんとなく入学した」(p<0.001),「社会的に評価されていない」(p<0.001),「悪い印象を持つようになった」(p<0.01)等であった。

TableIV-1 あなたが現在の学校(専攻)を選んだ理由をお教え下さい。(複数回答可)

回答項目	男性		女性		全体		P
① なんとなく入学した	11	12.1	18	8.3	29	9.4	
② 介護福祉の仕事に就きたかったから	44	48.4	149	68.3	193	62.5	
③ 資格が得られるから	55	60.4	153	70.2	208	67.3	
④ 自分自身の力を試してみたかったから	15	16.5	26	11.9	41	13.3	
⑤ 将来,家族の介護などに役立つから	22	24.2	86	39.4	108	35.0	
⑥ 仕事に直接役立つ勉強ができるから	18	19.8	60	27.5	78	25.2	
⑦ 他に行くところがなかったから	8	8.8	9	4.1	17	5.5	
⑧ 自宅から通えるから	9	9.9	42	19.3	51	16.5	
⑨ 家族の者に勧められたから	12	13.2	29	13.3	41	13.3	
⑩ 進路指導で勧められたから	17	18.7	10	4.6	27	8.7	※※※
⑪ その他	6	6.6	10	4.6	16	5.2	

$\chi^2=33.025$ df=10 P<0.001

TableIV-2 職業を選ぶとき,最も重視することはどのような点ですか。(3つまで回答可)

回答項目	男性		女性		全体		P
① 研修,教育が充実している	5	5.5	9	4.1	14	4.5	
② 自分の能力・資格が生かせる	45	49.5	96	44.0	141	45.6	
③ 仕事に魅力,やり甲斐がある	57	62.6	160	73.4	217	70.2	
④ 社会の役に立てる	19	20.9	26	11.9	45	14.6	+
⑤ 給料が高い	30	33.0	43	19.7	73	23.6	※
⑥ 福利厚生が充実している	4	4.4	13	6.0	17	5.5	
⑦ 労働時間が短く,休日が多い	10	11.0	13	6.0	23	7.4	
⑧ 業種に将来性がある	24	26.4	41	18.8	65	21.0	
⑨ 出世の見込みがある	5	5.5	1	0.5	6	1.9	※
⑩ 職場の人間関係がよい	46	50.5	136	62.4	182	58.9	
⑪ 経営者(施設長など)に魅力がある	5	5.5	8	3.7	13	4.2	
⑫ 通勤に便利である	7	7.7	54	24.8	61	19.7	※※
⑬ その他	0	0.0	3	1.4	3	1.0	

$\chi^2=35.028$ df=12 P<0.001

TableIV-3 あなたは働くことを通じて,どのような生きがいを実現したいと思いますか。次から最も近いものを選んで下さい。(回答は1つだけ)

回答項目	男性		女性		全体		P
① 社会の役に立つこと	11	12.1	24	11.0	35	11.3	
② 自分の能力や可能性を生かすこと	28	30.8	53	24.3	81	26.2	
③ 社会的な地位や名声を得ること	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
④ 経済的に豊かになること	5	5.5	4	1.8	9	2.9	
⑤ 豊かな人生経験を積むこと	17	18.7	69	31.7	86	27.8	※
⑥ 楽しく生きていくこと	28	30.8	62	28.4	90	29.1	
⑦ 特になし	0	0.0	4	1.8	4	1.3	
⑧ その他	2	2.2	2	0.9	4	1.3	

$\chi^2=10.522$ df=7 n.s

TableIV-4 介護福祉の仕事について、どのようなイメージをもっていますか。

(3つまで回答可)

回 答 項 目	男 性		女 性		全 体		P
① やり甲斐がありおもしろい	16	17.6	61	28.0	77	24.9	+
② つまらない	0	0.0	1	0.5	1	0.3	
③ 明るい	3	3.3	5	2.3	8	2.6	
④ 暗い	3	3.3	6	2.8	9	2.9	
⑤ 社会的に意義がある	22	24.2	33	15.1	55	17.8	+
⑥ 社会的に評価されていない	15	16.5	25	11.5	40	12.9	
⑦ 人間的なふれあいがある	44	48.4	146	67.0	190	61.5	※
⑧ 仕事がつつい	20	22.0	74	33.9	94	30.4	+
⑨ 豊かな人間性が身につく	18	19.8	59	27.1	77	25.0	
⑩ 給料が低い	21	23.1	39	17.9	60	19.4	
⑪ 企業に比べて人間的	23	25.3	40	18.3	63	20.4	
⑫ 福利厚生が悪い	2	2.2	0	0.0	2	0.6	
⑬ 自分の能力が生かせる	15	16.5	28	12.8	43	13.9	
⑭ 勤務時間が長く、休日が少ない	21	23.1	48	22.0	69	22.3	
⑮ 安定性、将来性がある	24	26.4	25	11.5	49	15.9	※※
⑯ 昇進のチャンスが少ない	3	3.3	1	0.5	4	1.3	
⑰ その他	3	3.3	3	1.4	6	1.9	

 $\chi^2=37.386$ $df=16$ $P<0.01$

TableIV-5 現場実習に行かれたと思いますが、実際に福祉の現場を体験してみて、あなたの福祉の仕事に対する気持ちはどのように変化しましたか。(回答は1つだけ)

回 答 項 目	男 性		女 性		全 体		P
① ますます良い印象を持った	5	5.5	24	11.0	29	9.4	
② 良い印象を持つようになった	62	68.1	103	47.2	165	53.4	※※※
③ なにもかわらない	17	18.7	56	25.7	73	23.6	
④ 悪い印象を持つようになった	7	7.7	33	15.1	40	12.9	+
⑤ ますます悪い印象を持った	0	0.0	2	0.9	2	0.6	

 $\chi^2=12.242$ $df=4$ $P<0.05$

TableIV-6 あなたがこれまでに行った就職に関する活動はどのようなことですか。

(複数回答可)

回 答 項 目	男 性		女 性		全 体		P
① 先生や就職課に相談した	24	26.4	55	25.2	79	25.6	
② 一般企業への会社訪問をした	2	2.2	1	0.5	3	1.0	
③ 一般企業の就職試験を受けた	2	2.2	2	0.9	4	1.3	
④ 一般気企業に勤める先輩の話を聞いた	8	8.8	8	3.7	16	5.2	
⑤ 介護福祉関係施設や団体等の資料を集めた	17	18.7	52	23.9	69	22.3	
⑥ 介護福祉関係に勤める先輩の話を聞いた	16	17.6	39	17.9	55	17.8	
⑦ 関心のある介護福祉関係の職場を訪問した	12	13.2	38	17.4	50	16.2	
⑧ 介護福祉関係の就職試験を受けた	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
⑨ 官公庁の就職試験を受けた	3	3.3	0	0.0	3	1.0	※
⑩ まだ就職活動をしていない	41	45.1	96	44.0	137	44.3	
⑪ その他	3	3.3	8	3.7	11	3.6	

 $\chi^2=14.605$ $df=10$ $n.s$

介護福祉系学生の就職意向に関する調査研究

TableIV-7 介護福祉関係の職場への就職活動を進めるうえで問題を感じることは何ですか。
介護福祉関係に就職する意向のない方もお答え下さい。(複数回答可)

回答項目	男性		女性		全体		P
① 一般企業にくらべて採用が遅すぎる	21	23.1	46	21.1	67	21.7	
② 求人状況がわからない	37	40.7	89	40.8	126	40.8	
③ どこに求人情報をもとめればよいかわからない	25	27.5	73	33.5	98	31.7	
④ 福祉関係にどんな職場があるのかわからない	15	16.5	23	10.6	38	12.3	
⑤ 就職活動の進め方がわからない	39	42.9	98	45.0	137	44.3	
⑥ それぞれの職場の仕事の内容がわからない	16	17.6	42	19.3	58	18.8	
⑦ それぞれの職場の勤務形態や労働条件がわからない	28	30.8	84	38.5	112	36.2	
⑧ 通勤圏内に適当な職場がない	11	12.1	31	14.2	42	13.6	
⑨ その他	4	4.4	12	5.5	16	5.2	

$x^2=3.889$ df= 8 n.s

TableIV-8 あなたは現在、介護福祉関係の仕事に就きたいと思っていますか。
(回答は1つだけ)

回答項目	男性		女性		全体		P
① できれば介護福祉関係に就職したい	79	86.8	181	83.0	260	84.1	
② 介護福祉関係に就職するつもりはない	2	2.2	12	5.5	14	4.5	
③ まだ決めていない	10	11.0	23	10.6	33	10.7	
④ 進学したい	0	0.0	2	0.9	2	0.6	

$x^2=2.505$ df= 3 n.s

TableIV-9(1) TableIII-8で①とお答えになった方に伺います。
(1)どの職場に就職したいですか。(回答は1つだけ)

回答項目	男性		女性		全体		P
① 保護施設(救護施設など)	1	1.3	0	0.0	1	0.4	※
② 養護老人ホーム	4	5.1	0	0.0	4	1.5	
③ 特別養護老人ホーム	36	45.6	99	54.7	135	51.9	
④ 軽費老人ホーム	1	1.3	0	0.0	1	0.4	
⑤ 老人福祉センター	1	1.3	0	0.0	1	0.4	
⑥ 老人短期入所施設	1	1.3	0	0.0	1	0.4	
⑦ 老人デイサービスセンター	3	3.8	14	7.7	17	6.5	
⑧ 老人介護支援センター	2	2.5	5	2.8	7	2.7	
⑨ 有料老人ホーム	0	0.0	1	0.6	1	0.4	
⑩ 身体障害者更生援護施設	3	3.8	10	5.5	13	5.0	
⑪ 精神薄弱者援護施設	1	1.3	2	1.1	3	1.2	
⑫ 精神障害者社会復帰施設	1	1.3	1	0.6	2	0.8	
⑬ 児童福祉施設(保育所以外)	4	5.1	3	1.7	7	2.7	
⑭ 婦人保護施設	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
⑮ 母子福祉施設	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
⑯ 老人保健施設	11	13.9	24	13.3	35	13.5	
⑰ 病院	4	5.1	6	3.3	10	3.8	
⑱ 社会福祉協議会	0	0.0	7	3.9	7	2.7	
⑲ 福祉関係の公務員	3	3.8	5	2.8	8	3.1	
⑳ 福祉関係の民間企業	2	2.5	0	0.0	2	0.8	
㉑ その他の福祉関係の職場	1	1.3	4	2.2	5	1.9	

$x^2=32.576$ df=20 p<0.05

TableIV-9(2) 希望する職種は何ですか。(回答は1つだけ)

回 答 項 目	男 性		女 性		全 体		P
① 指導員	35	44.3	4	2.2	39	15.0	***
② 相談員(ケースワーカー等)	3	3.8	6	3.3	9	3.5	
③ 寮母・寮父	26	32.9	139	76.8	169	63.5	***
④ 事務員	2	2.5	2	1.1	4	1.5	
⑤ ホームヘルパー	2	2.5	11	6.1	13	5.0	
⑥ 介護員	10	12.7	15	8.3	25	9.6	
⑦ その他	1	1.3	4	2.2	5	1.9	

$$\chi^2=85.149 \quad df=6 \quad P<0.001$$

TableIV-10 TableIII-8で②とお答えになった方に伺います。

(1)介護福祉関係の職場に就職したくない理由は何ですか。(複数回答可)

回 答 項 目	男 性		女 性		全 体		P
① 仕事に魅力ややり甲斐が欠ける	0	0.0	1	8.3	1	7.1	
② 仕事がつい	0	0.0	8	66.7	8	57.1	
③ 給料が安い	0	0.0	2	16.7	2	14.3	
④ 福利厚生が悪い	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
⑤ 勤務時間が不規則で、休日が少ない	0	0.0	7	58.3	7	50.0	
⑥ 職場が不便な所にある	0	0.0	1	8.3	1	7.1	
⑦ 将来性が認められない	1	50.0	1	8.3	2	14.3	
⑧ 人間関係が難しそう	1	50.0	3	25.0	4	28.6	
⑨ 実習等でいやになった	1	50.0	4	33.3	5	35.7	
⑩ 社会的評価が低い	0	0.0	2	16.7	2	14.3	
⑪ 親などが反対している	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
⑫ 採用時期が遅く、待っていても決まる保証がない	1	50.0	1	8.3	2	14.3	
⑬ 自分には向かない	1	50.0	5	41.7	6	42.9	
⑭ やっていける自信がもてない	0	0.0	9	75.0	9	64.3	
⑮ 他にやりたいことがある	2	100.0	6	50.0	8	57.1	
⑯ その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	

$$\chi^2=11.669 \quad df=15 \quad n.s$$

V 結 語

今回の調査で明らかになったことは、入学の動機・目的意識が就職意向までその要因を引き摺っていること、また介護実習の経験がその後の学生の学習意欲と関連しており、介護福祉の仕事への意向の有意性は実習経験が大きな独立変数となっているという事実である。そして、介護福祉の仕事に意向を示さない学生が顕著に介護福祉の仕事に対して「社会的に評価されていない」と答えるのであった。ただし、介護福祉の仕事に対して意向のない学生の42.9%がその仕事を「人間的なふれあいがある」、24.5%が「企業に比べて人間的」と答えており、ヒューマン・サービスとしての福祉専門職への肯定的理解も残していることを考慮しておく必要がある。

また、介護福祉の仕事「企業に比べて人間的」と答える学生の12.7%が、「明るい」と答える学生の12.5%が、「人間的なふれあいがある」と答える学生の11.6%が、そして「やり甲斐がありおもしろい」と答える学生の6.5%が介護実習の結果悪い印象を残して施設を後にしている

のである。つまり、この当りに教育上の個別化された指導の必要性、同時に学生の福祉現場あるいは福祉専門職への不満・問題意識というものをいかに消化させてより高度な専門職としての視点へと導いていくかといった枠付けが今回の調査から指摘されよう。なお、「なんとなく入学した」「他に行くところがなかったから」等の入学動機・目的意識の希薄な学生が教育プロセスの中で良いイメージを確立する、あるいはより向上心を形成して福祉職を目指して行くようになるケースを統計調査と同時に事例調査で探って行くことも今後のひとつの課題である。また入学動機・実習の経験という2項目は今後より細分化した手法で、度数の量的課題を踏まえてデータが一般化出来るものへと調査方法を多面的に強化していくことも必要である。

〈注〉

- 1) 養成校をコース別に分類すると、1年コース29校38学科1235定員、2年コース218校227学科14765定員、3年コース1校21学科891定員、4年コース6校6学科245定員となる(1997年4月現在)。
- 2) 1997年4月開校をブロック別に分類すると、北海道2校、東北4校、関東5校、中部10校、近畿8校、中四国7校、九州4校で計40校となる。
- 3) 養成校のスタッフには実証的研究をいかにより深いものにしていくかといった養成研究の課題もあるが、日本介護福祉教育学会に正会員として加入しているのは養成校254校中147校のスタッフに止まっている(1997年4月現在)。
- 4) 例えば指定規則についてケア・ワーク教育研究会において以下のような指摘がある。「大半の養成校で指定規則の時間量を越える養成カリキュラムを組むことになっているのではないか。そして、実際、指定規則を越える授業時間数を編成するという事は、①厚生省の指定規則にある時間数がそれ自体において少ないのか、それとも、②個々の養成校の特定の教育方針に基づいて、指定規則以上に増量を図っているのであろうか。この問題が、介護福祉士養成に関する質的問題としてのカリキュラム・スタディ、その中心的な問題として浮び上がってくる。」『介護福祉士養成カリキュラムの現状と課題』ケア・ワーク教育研究会、1996年、p.3
- 5) 調査票の作成に当っては、『福祉士養成校、福祉系大学在校生の就業意識調査報告書』大阪府地域福祉推進財団、1992年を参考にした。
- 6) なお、中国、四国および近畿を含めた同様の調査研究として、井村圭壮・相澤譲治「介護福祉士養成施設学生の就職意向に関する調査研究」『介護福祉教育』No.4、中央法規出版、1997年がある。
- 7) 「介護福祉意向あり」「介護福祉意向なし」の区分は、TableIV-8において、①を選択した学生を「意向あり」、②③④を選択した学生を「意向なし」として集計している。
- 8) なお、日本介護福祉士養成施設協会の全国調査では(1995年3月現在)、養成施設卒業生の進路としては、「老人福祉施設」44.7%、「老人保健施設」22.7%、「一般企業、進学、未定」

10.1%、「病院」9.4%、「身体障害者更生援護施設」3.3%、「福祉事務所，社協等」2.8%の順となっている。（『日本介護福祉士養成施設協会会報』第8号，1996年）

- 9) ただし、実際に就職している学生の職種をみると、性別に顕著な差はなく、男性で「寮父・寮母」43.9%、「介護士・介護員」29.6%、「指導員」12.4%、女性で「寮父・寮母」50.8%、「介護士・介護員」24.7%、「指導員」4.8%となっている。ただし、「ホームヘルパー」は男性は僅か2名、女性は63名であった。（『介護福祉士養成施設卒業生の就職実態調査（平成5年3月卒業生）』（社）日本介護福祉士養成施設協会，1995年）

〈参考文献〉

- 1) 『福祉士養成校，福祉系大学在校生の就業意識調査報告書』（財）大阪府地域福祉推進財団，1992年
- 2) 『介護福祉士養成カリキュラムの現状と課題』ケア・ワーク教育研究会，1996年
- 3) 『介護職のイメージアップのための提言および調査報告書』全国社会福祉協議会総合計画部，1991年
- 4) 『介護福祉士養成施設卒業生の就労実態調査』（社）日本介護福祉士養成施設協会，1995年
- 5) 『介護福祉士の専門性に関する実践による調査研究事業報告書』介護福祉研究会，1993年
- 6) 『介護福祉士の就労実態と意識に関するアンケート調査報告書』東京都社会福祉協議会，1994年
- 7) 森本佳樹「福祉マンパワー確保の現状と学生の就職意識」『社会福祉研究』第51号，鉄道弘済会社会福祉部，1991年

〔平成9年10月31日受付〕
〔平成9年12月25日受理〕